

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	札幌市立三角山小学校 全学年 253名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・パラリンピック、パラアスリートへの興味・関心をもち、人間の多様性、人間の強さやすごさへの理解を深めるとともに、夢と希望をもって生き生きと過ごす社会をつくろうとする思いをもつ。 ・夢の実現に向かって努力した人との出会いを通じ、自分の将来についての考えを具体的に深めていくための視点をもつ。
5 取組内容	○指導計画【2時間扱い】 ・パラスポーツのデモンストレーションや体験から、「障がい」とは「障がい者自身」がもつものではなく、社会に存在するものとする考え方や、多様性を認め合うことの大切さを学ぶ。(道徳「公正、公平、社会正義」1/1) ・パラリンピアンによる講話により、パラリンピック、パラスポーツについて学んだことから、自分の夢の実現に向けて大切に考えることを交流する。(道徳「希望と勇気」1/1) ○取組の様子 ①校長挨拶・講師紹介(2分) ②講師、スタッフ 挨拶(3分) ・自己紹介と「あすチャレ!スクール」の紹介を聞く。 ③ゴールボール説明(10分) ・ゴールボール映像、ゴールボールの試合風景を実際に見る。 ・映像を見たうえで、講師から補足の説明を聞く。 ④ゴールボールのルール説明(15分) ・簡易化したルールの説明を聞く。 ・応援の仕方について学び、みんな応援の練習をする。 ⑤ゴールボール大会(20分)



	・1試合3名対3名（児童2試合） （教職員1試合）※1試合約3分 ⑥講師によるデモンストレーション （15分）ペナルティースロー、シュートブロック ⑦講師による講話（20分） 「他者の事を自分事として考える心」 「障がいとは何か」 「可能性に挑戦する勇気」 「夢や目標を持つ力」 「自分自身にとって明日への挑戦とは」 ⑧児童挨拶2名（3分） ⑨記念撮影（5分）   
6 主な成果	・パラリンピアンへの努力や苦勞を学ぶことで、自分たちもスポーツや学習において努力を続けていきたいと考える子が増えた。 ・パラリンピックの意義を学ぶことで、障がい者スポーツに対する見方の変容が見られるようになった。
7 実践において工夫した点	・パラリンピアンへの動き、競技の特性を感じることができるよう、児童の隊形を工夫した。また、隊形変換が円滑に行えるよう、担任と打合せを行った。 ・一部の児童ではあるが、全学年が体験できるよう配慮した。
8 主な課題等	・今回は道徳で実施したが、今後は学習時間を精選するため、教科や総合的な学習の時間を使って横断的に運用していきたい。 ・今回は、253名の全校児童を対象としたため、パラスポーツを体験できる子が限られたが、経験を重視するならば単独学年で実施することも考えられる。
9 今後の取組について	・オリンピック・パラリンピックスポーツを実体験や疑似体験を通して、オリンピック・パラリンピックに関する興味・関心をさらに広げる活動を継続していきたい。そのため、来年度も研究推進校の応募を考えている。